

経営戦略の取り組み実績について

経営指標の目標値

<電気事業>

指標	現状 (H27~29平均)	数値目標	概要
経常収支比率※1	126%	125%以上 (毎年度※2)	設備更新や地域貢献のための財源を確保します
水力発電 年間供給電力量	169,877千 kWh※3	175,000千kWh (H40(2028)年度末)	効率的な水運用や発電施設の更新等により供給電力量の増加を図ります
地域貢献※4	25百万円/年	5億円以上 (10年間総額)	電気事業で得られた利益で地域へ貢献します

<工業用水道事業>

指標	現状 (H27~29平均)	数値目標	概要
経常収支比率	110%	115%以上 (毎年度)	黒字経営を継続します
契約率※5	鏡川 45.6% 香南 11.7%	50%以上 (H40(2028)年度末)	給水量の拡大を図ります
鏡川工業用水道 送配水管路の耐震化率※6	19.7% (H30年度)	25%以上 (H40(2028)年度末)	更新により送配水管路の耐震性を確保していきます

【評価】 A：順調または妥当 B：概ね順調または妥当 C：要努力 D：要見直し

R3年度取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	実績 又は評価
経常収益 1,562,790 千円 (▲3.7%) 経常費用 1,171,133 千円 (▲0.2%) 経常収支比率 133.4% (▲4.9ポイント) ()は対前年増減	水力発電の供給電力量が異常渇水により計画値ほど伸びなかったため、昨年度と比べて収益が減少したものの、目標値を上回ることができた	133.4%
<参考> 計画 170,399,000 kWh 実績 157,857,378 kWh (対計画比 92.6%) (対前年度実績比 84.4%) [前年度実績 187,066,957 kWh]	・供給電力量の増加の検討に向けて情報収集をしている ・FIP制度については収益の不安定性に繋がる項目もあるため、現状、これを活用した発電施設の更新等の目的は立っていない ・設備利用率の観点では、昨年度ほど有利な河川流況ではなかったため、供給電力量が伸びなかった	B
地域貢献 総額 48,577 千円 ・再エネ利活用補助金 10,000 千円 ・繰出金(再エネ関連) 9,087 千円 ・ダム周辺環境整備 24,490 千円 (住宅用PV補助・香北6事業・物部1事業) ・物部川森林整備 5,000 千円	・再エネ利活用補助金 交付額/予算=100.0% ・ダム周辺環境整備事業 交付額/予算=98.0% R3年度も50,000千円規模の地域貢献事業を実施できた	A

R3年度取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	実績 又は評価
経常収益 277,746 千円 (▲1.5%) 経常費用 232,225 千円 (▲10.3%) 経常収支比率 119.6% (10.7ポイント)	昨年度と比べ経常費用が減少したことが寄与し、経常収支比率の目標値を達成できた	119.6%
香南工水では、県と旧市の施設を活用した安定給水を実施 <参考> 鏡川 24,240 m ³ / 55,800 m ³ } 42.2% =43.4%(▲0.6ポイント) (▲0.1ポイント) 香南 2,677 m ³ / 8,000 m ³ } =33.5%(+2.8ポイント)	<鏡川> 契約水量の見直しにより給水量が若干減少している <香南> 統合により給水量は増加したものの、2028年度末までに給水量が統合時の計画値まで達することは厳しい状況	C
・優先整備区間(配水池出口~配水管路分岐地点まで約1.5km)のバイパス整備に向けた詳細設計委託業務を実施 ・詳細設計に必要な現地測量・試掘工事による埋設物調査・ボーリングによる地質調査を実施	・試掘工事や地質調査により軟弱地盤を確認、工事内容及び工法の見直し、更に工損調査を実施すること等が判明した。 ・このため、バイパス整備の事業費及び工期の大幅な増加が避けられない状況であり、計画の抜本的な見直しが必要となっている。	D

※1 経常収益÷経常費用×100。当該年度の料金収入等の収益で、人件費や支払利息等の費用をどの程度賅っているかを表す指標。

※2 水車発電機のオーバーホール等大規模修繕工事を実施する年度を除外。(平成28年度の経常収支比率は123.7%)

※3 平成30年度及び31年度の予定供給電力量。昭和62年度から平成28年度までの可能発電電力量の30年平均値を基に算定。

※4 ダム周辺環境整備事業交付金、物部川水源の森整備事業費補助金及び地域振興積立金を活用した事業(再生可能エネルギー利活用事業費補助金及び一般会計への繰出し)を想定。

※5 契約水量÷給水能力×100。なお、香南工業用水道は計画給水能力の日量8千m³にて算出。また、契約率の現状は、鏡川、香南ともに平成30年4月時点の契約給水量から算出。

※6 香南工業用水道の耐震化率100%。経済産業省の資料では、工業用水道事業における管路の耐震適合率は、平成27年度末時点で40%であり、平成31年度までに44%以上を目標とされている。

電気事業

(1) 電力システム改革への柔軟な対応及び (2) 施設の老朽化対策

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024) 以降	目標
<p>■事業収支の向上に繋がる方策の検討</p> <p>■老朽化施設の計画的な施設の修繕・改良の推進</p>	ダム・発電所の適正な維持管理・効率的な運用 H30委託成果精査 方針検討	発電電力量増に向けた検討 (優先順位検討) 吉野リニューアルの検討	永瀬改修検討 (永瀬ランナ流体解析)			永瀬2G実施設計 H39永瀬2G	発電所 ランナ更新 又は リニューアル 1箇所 (2028)
	計画的な施設の更新 吉野OH 集中監視制御システム更新 杉田OH実施内容の検討 長期修繕改良工事計画の見直し検討と改訂			吉野屋外変電設備更新 杉田OH			
■水力発電の売電方法の検討	情報収集・整理 方針検討 契約準備 売電方法の検討	情報収集・整理 料金方針検討 契約準備	情報収集・整理 料金方針検討 契約準備	情報収集・整理 料金方針検討 契約準備	情報収集・整理 料金方針検討 契約準備	基本契約終了★	売電料金 収入 14億円 (年間)

【評価】 A：順調または妥当 B：概ね順調または妥当 C：要努力 D：要見直し

R3年度取り組み実績	進捗状況と評価 (内容)	評価
<ul style="list-style-type: none"> ダム、発電所の適切な維持管理・運用に努めた FIP制度の詳細設計検討状況の把握 杉田OH 実施内容の検討 (メーカー推奨項目の精査など) 中長期修繕改良計画の見直し検討 	<ul style="list-style-type: none"> 事故による長期の設備停止もなく、ダム、発電所の適切な維持管理・運用を継続できている 新たな電力市場等の情報把握を進めながら、施設の修繕・改良計画の検討に取り組んでいる ダム再生計画も見据えながらリニューアルの局内検討を開始する必要がある 杉田OH実施内容を絞り込み、次年度早々の発注・契約に向けて準備を進めている 長期修繕改良工事計画の見直し検討・改定に取り組んでいる 	B
<ul style="list-style-type: none"> 電力市場への対応 (容量市場への応札、非FIT非化石価値の電力量認証) R4, R5の電力料金改定契約 (水力) の締結 「高知家応援でんき」募集開始 (4/30) 募集要綱一部改定 (8/31, 四電の新設料金プランを割引対象に追加) 水力100%プラン認証書交付式 (10/4) 高知家応援でんき (R3年度実績) <ul style="list-style-type: none"> 水力100%プラン : 6件 投資促進プラン : 1件 移住割引プラン : 142件 	<ul style="list-style-type: none"> R4年度以降の方針の検討や電力市場等への準備を進めている R3年度も目標の売電料金収入を達成できた 産業振興、地域活性化及びカーボンニュートラルにつながる取り組みを進めている 	A

(3) 災害に強い体制の整備

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024) 以降	目標
■豪雨災害や南海トラフ地震に対する管理体制の強化	放流対応訓練の実施						各訓練 1回以上 (年間)
	関係機関との連携強化						
	資金確保策の検討	資金の確保					
	震災対応訓練の実施とマニュアル等の見直し						
■施設の強靱化	杉田ダム	適切な水運用の実施					—
	事例研究及び対策検討						
	永瀬取水口スクリーン	修繕					

【評価】 A：順調または妥当 B：概ね順調または妥当 C：要努力 D：要見直し

R3年度取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
<ul style="list-style-type: none"> 各種訓練等の実施 〈震災〉シェイクアウト訓練、職員安否確認訓練 〈ダム〉事前放流通報演習、洪水対応演習 エレベータ閉込時救出訓練 杉田ダム洪水吐ゲート非常時操作訓練 〈系統〉系統事故復旧訓練及び研修（四国電力合同） 制御課事故等対応訓練（水難・系統事故） ダムの事前放流の態勢構築（全9回） 物部川ダム予報連絡会、物部川ダム連絡会、鏡ダム予報連絡会 四国7水系ダム洪水調節機能協議会への参加（R3.10/15設置） HPでのダム情報の公開中 震災対応マニュアル/BCP等の見直し及び再整理 BCP勉強会の実施、震災対応訓練の計画 1月発生の地震（震度5弱）対応の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の訓練を実施し、事故等への対応力の向上に努めている 降雨予測に応じ、出水に備えた態勢を構築している 勉強会や訓練等を通じてマニュアルの見直しが行われている 	A
杉田ダムの適切な水運用を実施（耐震等考慮）	<ul style="list-style-type: none"> 杉田ダムの適切な運用を継続している 施設の監視体制等の拡充により、災害対策の向上を図っている 	—

(4) 再生可能エネルギーの推進と地域還元

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024) 以降	目標
■再生可能エネルギーの導入支援	市町村支援						5億円 (10年間 総額)
	繰出し支援						
	大豊風力運転終了★撤去		積立金検討 →	南喜ヶ峰風力リプレイ検討 →		南喜ヶ峰風力FIT期間終了★	
◆地域還元事業の推進	ダム周辺環境整備事業交付金						—
	物部川水源の森整備事業補助金						
	公営企業局の森の適切な管理						

R3年度取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
<ul style="list-style-type: none"> 市町村への再エネ関連調査への支援（再エネ補助：いの町、交付額 10,000千円） 一般会計の再エネ関連事業へ繰出し（充当額 9,087千円、林業振興・環境部 6事業） 市町村からの問い合わせ対応（北川村、四万十町） 南喜ヶ峰風力について底地整理、他県事例等調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 再エネ導入に取り組んでいる市町村に対し、支援ができています 南喜ヶ峰風力の今後の取組検討を進めている 	A
<ul style="list-style-type: none"> ダム周辺環境整備事業（24,490千円）（住宅用太陽光補助事業、香北地区6事業、物部地区1事業） 物部川水源の森整備事業（81.43 ha、5,000千円） 公営企業局の森の適切な維持管理（整備事業方針改定）（別役・岡ノ内 除間伐 1.26ha、208千円） 	<ul style="list-style-type: none"> ダム周辺環境整備事業では、新たに住宅用太陽光発電設備への補助を実施できた 物部川水源の森整備事業をとおして、流域の森林整備を後押しすることができた 「公営企業局の森」整備事業方針について、計画どおり改定できた 	—

工業用水道事業

(1) 工業用水の需要低迷への対応

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024) 以降	目標
■給水先（給水量）の拡大 鏡川 香南	営業活動(鏡川) 新規需要拡大可能性検討(鏡川)						契約水量 29,000 m ³ /日
	市工水との統合に向けた取り組み(香南) 施設の稼働準備 国等との協議 全面稼働 ★ 給水ルート(当面は市施設 → 段階的な県施設への移行) (香南)			効率的な運用(香南)			
■更なる事業の効率化 鏡川 香南	施設の適切な維持管理(鏡川・香南) 事業の効率化の推進(鏡川・香南) 管路更新時のダウンサイジングの検討(鏡川) 効率的な運営(香南)						給水支障 ゼロ (年間)

【評価】 A：順調または妥当 B：概ね順調または妥当 C：要努力 D：要見直し

R3年度取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
<鏡川> ・契約水量 24,240 m ³ /日 (R3年度実績) ・契約水量の見直しにより微減 ・高知機械工業団地への給水検討及び新規水需要について県、市及び各種団体と協議を実施 <香南> ・契約水量 2,677 m ³ /日 (R3年度実績) ・利用者の罹災施設の復旧目途等についての状況確認を実施	<鏡川・香南> 給水量の拡大は難しい状況にある <香南> ・適切な維持管理と効率的な運営に努めている ・R3年度は給水支障ゼロを継続している	C
<共通> 安定給水に向けた施設の適切な維持管理 <香南> 使用頻度の低い施設の点検方法の見直しを実施	<鏡川・香南> ・適切な維持管理と効率的な運営に努めている ・R3年度は給水支障ゼロを継続している <香南> 効率的な運営に向けた取り組みが行われている	B

(2) 施設の耐震・老朽化への対応

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024) 以降	目標
■老朽化施設の計画的な修繕・改良の推進 鏡川 香南	施設の計画的な修繕・改良の実施(鏡川・香南) 委託調査(鏡川・香南) 方針等検討 更新施設の精選と実施に向けた取り組み(鏡川)		対策の実施				優先整備 区間の 管路 更新 (2028)
	管路更新概略検討 方向性検討 長期修繕改良工事計画の見直し検討と改訂(鏡川・香南)	基本設計 利用者への説明 国との協議	詳細 実施設計 計画スケジュールの見直し 料金改定(案) ★	配水管路優先区間更新(バイパス整備)			
■地震対策の充実強化 鏡川 香南	震災対応訓練の実施とマニュアル等の見直し(鏡川・香南) 備蓄品購入(鏡川) 被災時の代替給水策の検討(鏡川)						訓練 1回以上 (年間)

R3年度取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
<鏡川> ・今後の進め方等を検討 ・管路更新の詳細設計を実施 (現地測量・埋設物調査・地質調査) ・布設ルート等の関係者への協議 ・R4補助事業要望・料金改定に係る諸手続きを実施 <共通> 中長期修繕改良計画の見直し検討	(再掲) ・試掘工事や地質調査により軟弱地盤を確認、工事内容及び工法の見直し、更に工損調査を実施する必要があること等が判明した。 ・このため、バイパス整備の事業費及び工期の大幅な増加が避けられない状況であり、計画の抜本的な見直しが必要となっている。	C
・震災対応訓練の計画、BCP改定及び勉強会の実施 ・鏡ダムとのダム放流予報連絡についての協議 ・貯蔵品の購入、管理 ・非常時の通信手段について検討	・最新情報を把握しながら、着実に震災対策の取り組み等を行っている	A

共通事項

(1) 組織体制の強化と人材育成

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)以降	目標
■若手職員の教育の充実と能力向上の取り組み支援	OJTの強化						資格取得 1名以上 (年間)
	資格取得推奨						
	局内発表会の開催と外部発表の推進						
■震災対応訓練の充実	震災対応訓練の実施とマニュアル等の見直し[再掲]						訓練 1回以上 (年間)
	備蓄品購入(鏡川)						

【評価】 A：順調または妥当 B：概ね順調または妥当 C：要努力 D：要見直し

R3年度取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	評価
<ul style="list-style-type: none"> 電気取扱業務に係る特別教育等のOJTの実施 資格取得者、技能講習・特別教育修了者計19名(ダム管理主任、小型船舶、小型移動式クレーン、陸上特殊無線、フルハーネスほか) 免許更新9名 外部研修(30名 ※Web受講を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、OJTの強化及び資格取得の奨励等を積極的に推進していく 局内研究発表会の開催(11/30, 12/7) 	A
(再掲) 【電気事業、工業用水道事業】 ・その他 備蓄物資・燃料の確認・補給 衛星携帯電話の整備 ・令和2年度の漏水事故で使用した貯蔵品(漏水補修金具)の補充を実施(鏡川)	(再掲) 【電気事業・工業用水道事業】 ・震災対応訓練等の実施を踏まえたBCPの見直し ・1月発生の地震対応の振り返り	A

(2) 経営の効率化

取り組み名	H31年度 (2019)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)以降	目標
■発注の工夫等による経費の削減の推進	経費削減の推進						—
■民間活用による効率化等の検討	民間活用による効率化等の検討						—
■新技術の活用による効率化の検討	発電施設への新技術活用検討						新点検 技術導入 1件以上 (2028)
	工水施設への新技術活用検討						

R3年度取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	評価
早期の発注及び迅速な契約事務手続きに努め、品質の向上と経費削減につなげている	経費削減に向けた取り組みを推進している	—
県内外の卒FIT風力に関する情報収集等の実施	他事業者の取り組み状況の把握に努めている	—
<ul style="list-style-type: none"> 他県事例等の情報収集 点検作業におけるドローンや遠隔通信端末の活用 テレワーク及びWeb会議の実施 発電施設のITV更新の準備を進めている 	<ul style="list-style-type: none"> 新技術の活用に向けて、事例収集及び試行に取り組んでいる 局内会議など積極的にWeb会議システムを活用している 発電施設における通信ネットワークの構築に向け取り組んでいる 	A